

牛久：学校周辺に見る自然

第23号 牛久自然観察の森

2016年9月15日発行

＜ 夏の終わりに、牛久自然観察の森を歩く ～ ⑦ トンボの仲間 ＞

9/2、夏の終わりに歩いた牛久自然観察の森。今回は、トンボの仲間^{なかま}です。



「バッタの原」で低く飛びながら草にとまるトンボがいました。おなじみのシオカラトンボのメスでした。黄色っぽい体に黒い斑紋^{はんもん}があることから「麦^{むぎ}わらトンボ」ともよばれます。複眼^{ふくがん}は緑色ですが、オスでは深い水色をしています。シオカラトンボはいろいろなところで目にしますが、自然環境^{しぜんかんきょう}のよいところだけでなく、あまりよい環境^{かんきょう}とはいえない所でも暮らせるのだそうです。

麦^{むぎ}わらもようをした、シオカラトンボのメス。 別名^{むぎ}、麦^{むぎ}わらトンボ。



ナツアカネのメス（左）とオス（右）。オスはこの後もっと成熟^{せいじゅく}すると、腹部^{ふくぶ}だけでなく胸も顔も真っ赤^{むね}っかになる。

赤とんぼの仲間^{なかま}も見られました。この日見かけたのは、ナツアカネとノシメトンボ。シオカラトンボなど多くのトンボは幼虫^{ようちゆう}（ヤゴ）で冬を越^こしますが、赤とんぼの仲間^{なかま}は卵^{たまご}で冬越^{ふゆご}しします。ナツアカネに似たアキアカネは今回見かけませんでした。胸^{むね}のもようで見分けられることは何度か紹介^{しょうかい}してきましたが、産卵^{さんらん}のし方も異^{こと}なり、アキアカネが腹端^{ふくたん}を水面に打ちつけて産卵^{さんらん}するのに対し（2013年第24号参考）、ナツアカネは空中からばらまくように産卵^{さんらん}します。



左のノシメトンボは、羽^{はね}の端^{はし}にこげ茶色^{こげちやいろ}のもようがあるのでナツアカネなどとは簡単に区別^{かんたん}できます。が、近縁^{きんえん}でリスアカネという似たトンボも市内で時々見かけますので、注意^{ちゅうい}が必要です。ナツアカネ、アキアカネ、ノシメトンボの見分けについては、2015年第6号^{さんごう}を参考に（http://nature.kids.coocan.jp/Shizen/27_Nendo_c/2706.pdf）

【理科支援員：宮内】

夏の終わりに最もよく見かける赤とんぼ、ノシメトンボ。